

初めて一眼レフで撮影したハオコゼの写真に感動したのが、水中写真撮影の原点と話す岡田さん



瀬戸内海の生き物の姿を色彩豊かに切り取った1枚の写真。日本の海の魅力を世界に発信しようと日本政府観光局が開催した水中フォトコンテストで、千件以上の応募から最高の賞に輝いたのは岡田彩子さんが撮影した写真です。岡田さんが妹の誘いでスキューバダイビングを始めたのは4年前。初めて海に潜ったときの驚きを岡田さんは今



命の輝きに

魅せられて

でも忘れられません。

「素潜りやシュノーケリングとは違い、呼吸ができることで海の様子や生き物の営みをゆっくりと観察でき、まるで異世界を訪れたような感動がありました。そんな世界が自分の生活のすぐそばにあったことにも驚きました」元々、海も生き物も大好きな岡田さんは、ダイビングに夢中になります。

休日のたびに海に潜り、1年半後にはインストラクターの資格を取得、今ではダイビングショップでガイドも行っています。

ダイビングは南の海でするものと思われがちですが、瀬戸内海にも負けない魅力があると話す岡田さん。

「スノーパーで見掛けるメバルやカサゴといった身近で地味に思える魚も、海の

Vol.130

岡田^{あやこ}彩子^{さん}
(車町在住)

米軍岩国基地に勤務。休日は周防大島町などの海でダイビングのガイドを務め、自身のブログで瀬戸内海の魅力を発信している。運動、自然、生き物、好きなものが全部詰め込まれているというダイビングが生きがい。

中では全く印象が違います。輝く体色、すてきな模様、命として存在しているその輝きに感動します。瀬戸内海は四季がはっきりしているので、潜るたびに表情が違うのも魅力です」

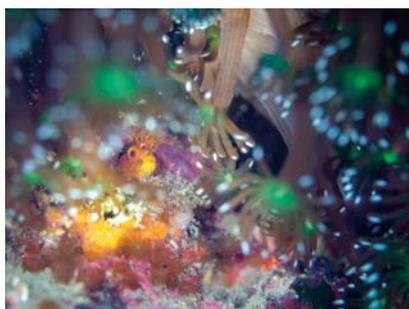
そんな瀬戸内海の魅力を多くの人に伝えたい、という岡田さんの思いが今回のフォトコンテストの金賞にもつながりました。受賞作品は、周防大島周辺に世界最大級の群生地がある二ホンアワサンゴと、どこにでもいるありふれた魚、コケギンポの日常を捉えた、岡田さんお気に入りの一枚です。

「ブログや写真を通じて、皆さんの身近にこんなに楽しい遊び場があるよ、ということを伝えられたらと思っています。ダイビングは私にとってなくてはならない大切なもの。これからも楽しみ続けたいです」

大好きな生き物が待つ大好きな海に、岡田さんはこれからも通い続けます。



海中で思い通りの写真を撮るためには、ダイビングの技術向上も欠かせない



受賞作品。いつも会うなじみの個体のかわい表情を1時間近くかけて撮影した

